

バンク・セントラル・アジア (BBCA)

純金利収益・非金利収益ともに好調、新サービス開始によるデジタル化推進とイスラム金融が将来の成長の原動力へ
インドネシア | 銀行 | 業績フォロー

フィリップ証券株式会社

BLOOMBERG BBCA:IJ | REUTERS BBCA:IJ

- 2019/12 期 1H (1-6 月) は、純金利収益が前年同期比 13.1% 増の 24.63 兆 IDR、非金利収益が同 24.5% 増の 9.61 兆 IDR、純利益が同 12.6% 増の 12.86 兆 IDR であった。
- 貸出残高は大企業向け、商業・中小企業向け、住宅ローンとともに同 10% 超の伸びとなり、貸倒引当金の対不良債権比率も向上した。
- 銀行取引チャットアプリやオンライン口座開設サービスなどのデジタル化推進、およびイスラム金融が将来の成長の原動力となろう。

What is the news ?

7/24 発表の 2019/12 期 1H (1-6 月) は、貸出利鞘にあたる純金利収益が前年同期比 13.1% 増の 24.63 兆 IDR、非金利収益が同 24.5% 増の 9.61 兆 IDR、純利益が同 12.6% 増の 12.86 兆 IDR となった。2019 年のインドネシア経済成長率予想が年率 5.0-5.2%、年率 3.3% の低インフレ率といった追い風のマクロ環境の中、貸出ローン残高は前年同期比 11.5% 増の 565.23 兆 IDR、負債の第三者ファンドは同 8.6% 増の 673.87 兆 IDR と拡大した。貸出・預金比率 (LDR) が同 2.00% ポイント上昇の 79.0% となり、純金利マージン (NIM) が同 0.20% ポイント上昇の 6.20% となったことが純金利収益増に寄与した。トレーディング損益 (同 70.0% 増) およびフィー・コミッション収入 (同 17.7% 増) が非金利収益増に貢献した。

貸出残高は、大企業向けが同 14.6% 増、商業・中小企業向けが同 12.5% と堅調。消費者向けは同 6.4% 増と穏やかな伸びだったが、消費者向けの 60% を占める住宅ローンは顧客数 (同 5.9% 増) と 1 顧客当たり貸出残高 (同 5.1% 増) とともに寄与して同 11.2% 増の 90.70 兆 IDR と好調。貸出の質は、要注意債権残高が同 13.3% 増となったものの、不良債権比率 (グロス) が前年同期の 1.4% から横ばいであり、貸倒引当金の対不良債権比率も 183.7% に達する (2019/3 末は 171.4%) など改善した。

How do we view this ?

同社は、多チャネルのトランザクション・バンキング事業への移行を図っており、デジタル取引への移行を推進している。2019/12 期 1H は取引数の 98% がデジタル取引で行われ、取引金額ではインターネットバンキングが同 15.8% 増の 4,985 兆 IDR (取引金額の構成比 36%)、およびモバイルバンキングが同 51.5% 増の 918 兆 IDR (同構成比 7%) と拡大した。また、2019/2 にインドネシア市場初の銀行取引チャットアプリ「BCA Keyboard」をローンチし、2019/4 にオンラインでの口座開設サービスを開始するなどデジタル化を加速中。6/20 の臨時株主総会で「バンク・ロイヤル」の買収契約が承認され、イスラム金融の BCA シャリアバンクに統合される方針が示された。デジタル化とイスラム金融が同社の今後の成長を後押ししよう。新首都移転も業績への長期的な追い風となろう。2019/12 通期の市場予想は、純利益が同 12.5% 増の 29.09 兆 IDR。

業績推移

※参考レート 1IDR=0.0074円

事業年度	2016/12	2017/12	2018/12	2019/12F	2020/12F
純利益(十億IDR)	20,605	23,310	25,855	29,097	33,029
EPS(IDR)	835.76	945.00	1,049.00	1,182.92	1,340.87
PER (倍)	35.84	31.69	28.55	25.32	22.34
BPS(IDR)	4,560.25	5,325.63	6,151.27	7,012.71	7,970.22
PBR (倍)	6.57	5.62	4.87	4.27	3.76
配当(IDR)	200.00	255.00	340.00	339.12	393.37
配当利回り (%)	0.67	0.85	1.14	1.13	1.31

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想 (IDR) **339.12** (予想はBloomberg)
終値 (IDR) **29,950** 2019/8/26

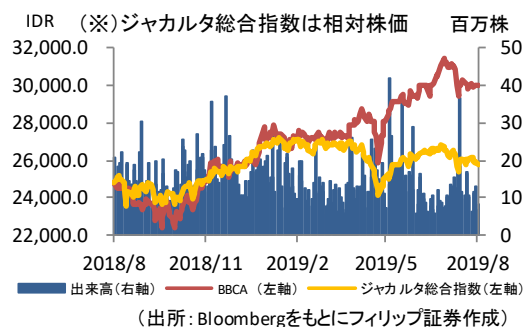
会社概要

1957年に設立したインドネシアの大手商業銀行の一つ。1998年のアジア通貨危機の際、国有化され、インドネシア銀行再建庁 (IBRA) のもと資本増強・リストラに取り組んだ。その後2000年に再上場を果たした。トランザクションバンキングに重点を置いており、大企業、中小・零細企業、消費者向けに貸出など金融サービスを提供している。2018/12末時点で、1,249の支店、17,778のATM、何十万台に及ぶEDCマシン、24時間対応のインターネット・モバイルバンキングシステムを展開する。

主要な子会社には、香港で金銭貸付や送金を行うBCA ファイナンス、イスラム金融を行うBCA シャリアバンク、有価証券の委託売買、引受・売出しを行うBCA Sekuritas、主に損害保険を手掛けるBCA Asuransi Umum、運転資金ローンや多目的ローン、オペレーティング・リースなどを提供するCentral Santosa Finance、ベンチャーキャピタルのCentral Capital Venturaなどがある。

企業データ (2019/8/27)

ベータ値	1.01
時価総額 (十億IDR)	738,418
企業価値=EV (十億IDR)	-
3か月平均売買代金 (十億IDR)	393.2



主要株主 (2019/8)

株主	(%)
1. PT DWIMURIA INVESTAMA ANDALAN	54.94
2. CAPITAL GROUP COMPANIES INC	1.85
3. Salim Anthoni	1.76

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

アナリスト

笹木 和弘
kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp
+81 3 3666 6980
増淵 透吾
togo.masubuchi@phillip.co.jp
+81 3 3666 0707

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: フィリップ証券 リサーチ部

公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員補 増淵透吾

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>